

超人気FP!

ABC ネットニュース

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2017年9月8日

今月のトピックス 「北朝鮮不安（問題）でなぜ円高に？」

8月29日早朝、ただならぬことが起きていると驚いた人も多かったことでしょう。テレビで「国民保護に関する情報」として、北朝鮮によるミサイル発射を伝えていた（「アラート」）からです。ミサイルは、北海道の襟裳岬上空を通過し、日本に緊張が走ったわけですが、なぜか為替市場は円安ではなく急激な円高に振れています。ミサイルを巡る問題は日本が当事国です。通常当事国の危機感が高まれば、その国の通貨は売られる要因になるはずですが、反対に円が買われる現象が以前も起こっています。たとえば、東日本大震災の当時、日本に未曾有の大災害が起こったにもかかわらず、やはり円が買われ対米ドルで史上最高値を更新したことを覚えている方も多いでしょう。また、昨年の英国のブリグジット、米国大統領選でも一時的に円が買われた等々、不安感が高まると必ず円が買われています。まるで日本の財政悪を無視するかのよう・・・。

不安感が高まるとなぜ円が買われるのかと言えば、世界の投資家が不安感の高まりにより投資ポジションを閉じることがその要因です。世界の投資家は、手持ちの資産だけではなく、金利水準の低い通貨で資金調達（借入）を行います。足下で言えば、円やスイスフランが資金調達通貨になるケースが多いです。その調達した資金を金利の高い通貨に交換して、利ザヤ（金利差）を稼ぐ取引を日常的に行っています。市場が落ち着いていればこの取引自体に問題はありませんが、市場に不安感（リスク）が台頭してくるとこの取引を清算することになります。投資している「外貨を売って円を買い」、そして返済を行うわけです。日本はミサイル問題の当事国ではありますが、世界の投資家が円を売る（円安）という行動を起こす前に、先のポジションの清算を行う必要があるため円高となるのです。損失を膨らませない、あるいは利益が出ているなら利益を確定させるため、まず現在の取引（ポジション）を清算することが最優先で、このポジションの清算が第1の要因です。

もう1つの要因が、日本は世界最大の債権国（図参照）であるため、日本国内で有事が発生すれば、諸外国に投資などを行っている余裕はなくなります。投資資金を引き上げようという流れが起きれば、これも外貨を売って円を買うという流れになるでしょう。実際には、よほどの事が起きない限り投資資金が日本にすぐに還流することはないものの、もしかしたら還流するのでは？という思惑で円高が進んでしまうことはあるでしょう。先に述べた東日本大震災はその典型と言えます。したがって、今後も北朝鮮問題などのさまざまナリスク要因が起こる度に円は買われると考えられます。ただし、リスク要因による円買い（円高）は一過性で終わることが多いです。仮に本当に大幅な円売り（円安）が起こるとしたら、世界の投資家が円を売るよりも、日本人が国内資産を諸外国に移す「キャピタルフライト」が大々的に起きた時と考えられます。

主要国の各年末の対外純資産額

※出所=財務省
単位=兆円

	日本	中国	ドイツ	スイス	ロシア	英国	イタリア	フランス	米国
2004	185.8		28.0	48.9	0.4	-28.3	-12.9	15.7	-264.7
2005	180.7	33.9	28.0	46.6	-5.2	-43.8	-6.6	22.8	-300.4
2006	215.1	78.8	87.9	55.2	-7.5	-61.9	-12.3	13.6	-302.1
2007	250.2	78.8	107.6	55.2	-14.5	-80.2		42.7	-278.4
2008	225.5	137.8	82.4	55.9	23.1	-8.8	-25.7	-47.0	-314.8
2009	266.2	167.7	118.9	63.1	10.9	-27.2	-38.7	-29.8	-252.0
2010	251.5	167.7	114.2	64.5	10.9	-24.5	-28.9	-29.8	-252.0
2011	253.0	137.9	93.9	73.2	1.3	-24.3	-34.6	-22.2	-201.3
2012	296.3	150.3	121.9	84.7	10.7	-74.3	-43.5	-32.3	-382.2
2013	325.0	207.6	192.2	103.6	11.5	-3.7	-67.7	-50.4	-482.0
2014	366.8	214.3	154.7	99.5	40.5	-66.7	-65.5	-51.3	-834.2
2015	339.2	192.3	195.2		37.8	-11.7	-57.2	-49.9	-886.4
2016	349.1	210.3	209.9	98.3	26.5	67.2	-27.6	-43.2	-947.2